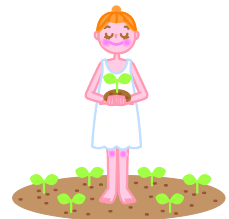


Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2011 年 8 月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

OnlyOne
Column

豊かな体験活動が伝えるもの

能代市社会教育指導員 高畑 勉

7月16日、放課後子ども教室週末体験活動に付き添って、檜山梶原園に行き、初めて「茶摘み」の体験をした。茶摘みはもちろん、茶もみの工程など、「驚きの収穫」があった。

最大の収穫は何だろうと考えた。それは間違いなく、檜山茶を守り伝える梶原茂兎悦さんと、能代商業高校の生徒たちに出会えたことである。誇りをもって働き、これまでの苦勞を語る梶原さんの姿は、当然のことながら私の心を大きく揺らした。教わりながら懸命に作業する能商の生徒たちの姿にも……。

体験活動の目的は、「人と人との交流」にこそ、あると思う。仕事の「なりわい（生きる業）」の部分ちゃんと伝えられる人に出会えることにある。

これまでのように、カゴを渡して「自由にリングを収穫してください」というのでは、子どもたちは「農業って、なんて楽な仕事なんだろう」としか思わない。しかし、今回のこの活動に参加した子どもたちは、摘んでも摘んでも袋がいっぱいにならない「一芯二葉」の茶摘みを体験した。辛抱強く続く、途方もない長い時間の茶もみ作業も体験した。「遊びの体験」ではなく、「なりわいの体験」をしたことになる。

私もお茶に関しては全く無知であった。これからお茶を飲むときには、お茶を作っている人たちの大変な苦勞を思いながら味わおう。また、お茶を作っている人たちは、みな光っていた。その光を見た。それを知った私たちは、大人も子どもも、少しは人間の幅が大きくなったような気がする。

現在、ニートが社会問題になっているが、彼らは働くことの意味や喜びを知っているのだろうか？ ……知らないと思う。子どもたちには、小さいころから、働くことの本当の素晴らしさを体験させたいと思う。



【参考】和歌山県 NPO法人 ほんまもん体験倶楽部

方 針

インストラクターは、絶対に「いらっしやいませ」という言葉は使わない。本物体験では、ゲストとホストの関係ではなく、あくまで師匠と弟子の関係が基本となる。

接し方のルール

- ① 準備や片づけは、参加者にやらせる
- ② 言葉で指導するのは良いが、手伝わない
- ③ 褒めすぎない



能代市家庭教育支援事業では こんなことやってマス

4~7月

家庭教育関係講座

秋田大学との連携事業です

講演「なぜ私たちは北風になってしまうのか？」

講師：秋田大学教育文化学部心理学研究室 森 和彦 氏



親が子どもを管理対象としてみる限り、「この子は○
○してくれない」という否定的なイメージを抱くこと
になり、それが子どもにも伝わってしまう。子どもは
管理対象ではなく、親とは別の自意識をもったひとり
の人間である。

親自身の中にもコドモ的な部分があるので、コドモ
と同じ立場に立ってみて、「コドモにこう言っても通じ
ないなあ」という理解のしかたはできるはず。育児は
育自。自分は今、親として育てられているんだと認識
することが大切だ。 (6/18 さんさん保育園にて)

＜参加した保護者の声＞

- 思い当たるところが
ありすぎて、耳の痛い
2時間でした……。普
段忙しいので、気持
ちを改める意味でも、良
い時間でした。
- もっと子どもの力を
信じ、見守っていきた
いと思います。

社会参加活動推進事業「みんなで Action！」

6/25 子育て支援活動「ぬくもり」

＜参加した高校生の声＞

- ふだん小さい子とふれあうことがあ
んまりないので、楽しかったです。
- 踊り、遊び、工作も、興味をもって
やっているなと思いました。みんな
しっかりしていたので、とても楽し
くやることができました。



7/4 非行防止街頭キャンペーン

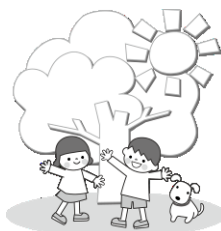
＜参加した高校生の声＞

- こちらから声をかけると、あたたかく笑顔で
接してくれる方がたくさんいて、うれし
かったです。
- 地域の人たちとふれあうことができて良
かったです。



人との豊かな関わりや体験活動が社会性を育む

五感をフルにつかった体験は、人やモノ、自然との関
わり方や接し方を学ぶうえで、とても重要です。ものご
とに対して興味を持って取り組む姿勢が育ち、社会的視
野を広げることにつながります。



乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2011年12月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

OnlyOne
Column

子どもの命を輝かせるために

能代市社会教育指導員 高畑 勉

ある中学校の一年生A君は、期待に胸をふくらませて野球部に入った。しかし、友だち関係がうまくいかず中学生生活に馴染めなくなって、自宅にこもってしまった。少しずつ小学生時代の野球仲間と距離が遠くなり始めたので、意を決してグラウンドの隅に行ってみた。それを見つけた監督は、自分のそばに呼んで、「よく来た」「明日も来るんだよ」と言いながら「ノック」を打ってやった。それを羨ましそうに見ていた一年生の部員たちは、家に帰ってから「A君はずるい。学校にも来ないのに監督からノックを打ってもらった。監督はえこひいきしている」と両親に訴えた。翌日からこの問題の対応に監督と校長は苦慮した。A君はまた家にこもった。

A君はなぜ不登校生徒になってしまったのだろうか。

小学生の頃のA君は、「勉強と野球はトップクラス」で落ち込むことなどなかった。つまり、もっと視野を広くし、いつも上には上があることを知る体験が不足していたとも言える。中学校へ行くとA君の上をいく生徒は当然いる。苦しくても冷静に自分を見つめ、その壁を乗り越えていく方法を知らなければ、自分に負けてしまうのは当然のことであろう。

自分を信じて工夫して壁に立ち向かうことを教え、自立する過程を見守るのが家族の大切な役目である。なにしろ途中何回も失敗を繰り返すので「家族の励まし（愛情）」がないと挫折してしまう。結果、成長し自立した自分を発見できるし、「A！成長したな」と家族も認める。

ところで、先頃、朴瀬小学校では「命」の勉強をした。勉強後の一年生から六年生までの感想文には、全員「自分の命は輝いているぞ」と書かれていた。この命、「不登校」などで光を失わせてはならないと思った。また、自分の命を大事に思う気持ちが育っていれば、必ず自分を磨くはずであるとも思った。

お釈迦さまは弟子の阿難に、「人間に生まれたことをどのように思っているか」と尋ねられ、次のようなお話をされている。

《大海中に住み、百年に一度しか浮かび上がってこない目の不自由な亀が、海面に顔を出したときに、流れただよっている浮木の一つしかない穴に首がちょうど入ることがあるか》

当惑している阿難に、このようなことは有ることが難しい。人間として生まれてくることは、このように「有り難い」めったにないことだと教えられた。

子どもの幸せを願わない親はいない。その幸せとは、「子どもの自立」ではないだろうか。そして、それを支え育てるのは、大きく深い家族の愛情だ。「有り難い」光り輝く命が年齢とともにだんだん光を失わないようにするには、現在の生活全体を、将来の「子どもの自立に役立っている」という目線で見直す必要があるとは思いませんか。



能代市家庭教育支援事業では
こんなことやってマス

8~11月

家庭教育関係講座

「考えよう！ 大切な命とからだの成長」

講師：助産院イスキア 院長 菅原光子 氏

家庭ではなかなか改まって伝えられない「誕生」「命」というテーマの講座を、子どもを対象に実施しました。自分も、そして周りの友だちも、奇跡のように生まれた大切な命だと感じることができました。

最後にお父さん、お母さんと「命のメッセージカード」のやりとりをして、親子の絆を深めました。

(10/27 朴瀬小学校)

＜参加した子どもの声＞

○生まれる前に亡くなってしまう子がたくさんいるので、びっくりしました。でも、私は亡くならないで、ここまでこれました。私は、これからも友だちや家族、自分の命を守りたいです。



社会参加活動推進事業

「みんなで Action！」

「命の大切さ事業」

高校生が子育て支援センターの事業をお手伝いしながら、子育て中のお母さんたちに話を聞いています。



命

たくさんの尊い命が失われ、改めて、今あたりまえのように暮らせること、「命」の有り難さを考える機会になりました。

「命を大切にすることを育む教室」

講師：秋田県動物管理センター
所長 伊藤 稔 氏



失われるペットの命を見守り続ける動物管理センターの活動をうかがいました。

『生に責任をもつことは、可愛いからといって、制限すると可哀想だからといって、ただ甘やかすことではない。』

人間社会で一緒に暮らす以上は、人間社会で長く暮らせるようにしつづける必要がある。』という言葉が、重く、胸に響きました。

「子どもに置き換えると、とても考え深い内容だった」「次は子どもと一緒に聞きたい」という声が聞かれました。

(10/29 能代市山本郡PTA連合会

母親委員会)

＜参加した高校生の声＞

- 目線を同じにして微笑みかけると笑ってくれる。ほめると喜ぶ。一緒に遊ぶと、どういう子なのかが分かるようになりました。
- 自分も昔はしてもらったこと、また、いつかするかもしれないことと考えると、改めてお母さんってすごいと感じました。

家族がつながる機会を大切にする

家族団らんの機会として、誕生日や季節の行事を大事にしましょう。お正月、節分、ひな祭り、子どもの日、お盆、クリスマスなどは、子どもの心がワクワクする行事です。



乳児は 肌を はなすな

幼児は 手を はなすな

少年は 目を はなすな

青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

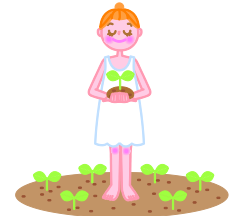
能代市教育委員会 教育部 生涯学習課

〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2012年3月

発行：能代市教育委員会生涯学習課

OnlyOne
Column

親 原 病

能代市社会教育指導員 高畑 勉

子どもは、親の与えてくれた豊かな環境の中で何不自由なく生活していても、自分の好奇心や欲求との「ズレ」を感じる。がまんできなくなると、心にたまったマグマを外に向けて発散する。それが親にとってはメチャクチャに見えても、子どもは「自分で本当にやりたいこと」を見つけようと、小さな「反抗」や「挑戦」を繰り返し、軌道修正をしながら、やがて「自分だけのもの＝熱中できるもの＝Only One」を見つけていくのだ。これを発見するには、良いことも悪いことも含めて、多様な体験が必要だ。なぜなら、誰かに与えられたものではなく、自分で見つけたして初めて意味があるものだからだ。

A先生は、最近あるお母さんから「うちのB子はテストでうっかりミスが多いのですが、どうしてでしょうか？」という相談を受けた。そこでA先生は「B子さんは、テストのときだけ、うっかりミスをすると思いますか？」と聞いた。お母さんは困った顔をした。

B子のお母さんは、家では子どものすることに目を光らせ、転ぶ前に手を貸すような育て方をしているということだ。学校へ行く前にも、「教科書は！」「体育着は！」「給食袋は！」などと点検してあげる。そうすると、もちろんミスは起こらないのだが、残念ながらテストのときにお母さんはいない。

子どもは、存在そのものが個性豊かな「Only One」だ。誰しも必ず「自分だけのもの」を持っているが、隠れているので見えない。親の敷いたレールを歩くような生活の中では、見つけられない。いろいろな体験を通して、自分を深く掘り下げないと発見できないのだ。転んだり、小さな傷をつけることもあるが、その傷の痛みは子どもに植え付けられ、二度と失敗をしなくなることだろう。この時期に、親が自分の経験から「危ない」「いけない」「無理よ」……と、親の都合でやめさせると、子どもの成長はない。いわば「親原病」という不幸な病にかかってしまう。

今年度の家庭教育支援事業のキーワードは「自立」である。近年、青少年の社会的問題としてマスコミを賑わせているのは、「いじめ」「不登校」「ひきこもり」「ニート」などである。こうした問題の根底には、「自立」が欠落していないだろうか。

「自立」を支えるものは、「絆」と「体験活動」であろう。これは車の両輪と言っても良い。幼児の頃に親の愛情をたっぷり浴びて、安心感のある居場所を得た子どもは、外に出て試行錯誤をしているうちに、世界を知り、新しい発見をする。そうして、どんどん自分らしさを蓄え、発揮していき、「この子、こんなことができるの」と周囲から認められるようになると、自分の存在感に気づく。こうしてOnly Oneをもった子どもは、自分を生かせる仕事へと舵を切っていく。

日々成長する我が子と、これからの人生を語り合うことができれば、これこそ親の幸せ、子育ての醍醐味というものである。





能代市家庭教育支援事業では
こんなことやってマス

12~3月

家庭教育関係講座

「動物子育て物語」

～ふれあいで作る親子の絆～

講師：秋田市大森山動物園 園長 小松 守氏

人間も動物も、産子数の少ない種は、親子の絆を基礎にして他者との関わりをつくっていく、それぞれの社会のなかで生き残る知恵や能力、ルールを学んでいく。授乳やふれあうことで育まれる親子の絆は、子ども、その子どもへとつながっていく、生きるうえで大切なことを伝えていく。それこそ「命をつなぐ」ということだ。

(2/18 能代市私立幼稚園PTA連合会事業にて)

<声>

- 今日家に帰ったら、まず2人の子どものぎゅーとしたいと思います。
- 自分の親にも愛情を注いでもらっていたことを実感でき、感謝する気持ちになりました。



<声>

- 親としての見直すべきところがあり、反省とともに見方を変えてみようと思った。
- 「我慢」教える前に、自分も「我慢」して生活していきたいです。

「挫折する子どもと挫折しない子ども」 講師：能代市社会教育指導員 高畑 勉氏

子どもの幸せとは、最終的に「自立」ではないか。「これは自立に役立っているか」ということを念頭において子育てをしてほしい。

「挫折」に負けないためには、心の器を大きくすることだ。人間関係のチャンネルを増やし、良いところを見つけて褒め、失敗と成功の体験を積ませる。親の都合で躰をしてはいけない。

(1/14 能代市スポーツ少年団育成母集団・保護者研修会にて)



TOPICS!

能代市教育委員会では
豊かな体験活動の場を
子どもたちに提供しています
～ 詳しくはお問い合わせください ～

◆◆◆ 小学生対象の事業 ◆◆◆

- 子ども館主催事業 (子ども館 aE52-1277)
- チビッ子公民館 (中央公民館 aE54-8141)
- キッチン・キッズ (働く婦人の家 aE54-8210)
- 夏休み・冬休み体験教室 (二ツ井公民館 aE73-2590)
- 土曜体験教室 (二ツ井公民館 aE73-2590)
- 放課後子ども教室週末体験活動 (生涯学習課 aE73-5285)



向き合う時間をつくる

ほんのわずかな時間でも、子どもと向き合う時間をつくるのが大切です。あわただしい日常の中でも子どもが“あったか”を感じられるよう心がけたいものです。



乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、生涯学習課までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部 生涯学習課 〒018-3192 能代市二ツ井町字上台 1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:syougai@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～



2012 年 8 月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

父 親 の 愛

能代市社会教育指導員 高畑 勉

F小学校の相撲部員、6年生のH君は、団体戦の大將を務めている。普通大將はチームで一番強い者が務めるが、作戦上、H君がいつも大將で試合に臨む。F小学校とならんで優勝候補のK小学校は、最強の者を大將に据えている。大將戦の前に決着をつけたいのがF小学校、大將戦まで持ち込みたいのがK小学校である。

相撲の神様のいたずらか、3つの大会の優勝決定戦が大將戦に持ち込まれた。H君はそのつど闘志をみなぎらせて挑んでいったが、善戦むなしく3敗してしまった。唇を噛んでうなだれながら引き下がる姿に、応援団は声をかけようがなかった。まして、応援しているH君の父母の胸中は察して余りある。親であれば、「どうしてうちの子どもばかりが、こんな辛い立場になるんだ」と監督に恨みごとのひとつも言いたくなるだろうに、H君の父母は、何も、ひとことも言わなかった。優勝したK小学校は、歓喜、歓喜の大万歳である。F小学校だって、準優勝なら立派な成績と言って良いはずなのに、3回も、となれば……。

大会も終わり、部員の健闘を讃える食事会が開かれた。H君は心なしか元気がない。相撲部親の会会長であるH君の父は、監督のこれまでの指導、親たちの協力などに感謝したあとに、子どもたちの戦いぶりにふれた。的確に部員一人ひとりの活躍ぶりを讃えていったが、その場にいる者たちは、H君のことをいったい何と云うのだろうと少し心配になってきた。その心配も頂点になりかかったとき、父は視線をH君に向け、思い切ったように、「……Hは、お父さんの誇りだ」と言いきった。



たとえチームに迷惑をかけた結果になったとしても、全力で真向勝負を挑んだ我が子であれば、親が褒めてやらないでどうする。子どもにまっすぐに向かっていく、この父の比類ない愛情を目の当たりにして、H君の母はもちろん、他の保護者らも顔を上げられなかった。

H君は照れくさそうに笑いながらも、目からは大粒の光るものがこぼれた。それからの食事会ではH君を責める者はなく、むしろ一戦一戦、相手を苦しめていったことへの称賛の声が波紋のように広がっていった。

後日伝え聞いた対戦相手のK小学校の校長は、「あの子を誰がどんな形で慰めているのかと気になっていたが、最高のフォローをしている。相撲をとおして親子がお互いを強く認め合うことができて、本当に良かった。勝つことよりも良かったのでは……」と言った。勝つことが必要以上に求められ、あちこちでギクシャクした問題がささやかれている昨今であるが、この父親のように「子どもを大きく強く育てるんだ」という気持ちをもっていれば、チーム内のトラブルは起こらないと思う。親に愛情をいっぱいもらって育ったH君は、大学卒業後、自分で貯めたお金で自分探しの旅を決行、その後海外へ雄飛している。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。

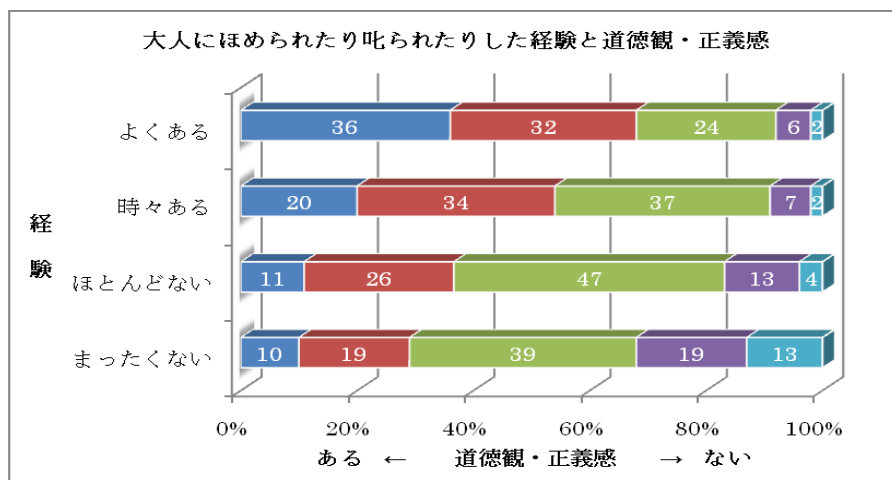
『三六九の子育て力』 / 越川禮子 著（ポプラ社）

狭い土地に多くの人々がひしめきあって暮らしていた江戸の町。だからこそ、人づきあいを円滑にし、子どもの自立を促す「江戸しぐさ」が生まれました。本書では「江戸しぐさ」を取り入れた子育てを紹介しています。子育てに先人たちの知恵を借りてみませんか？ 忙しい合間にも手に取っていただける1冊です。



👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかも？



(独)国立青少年教育振興機構『「青少年の自然体験活動等に関する実態調査」報告書 平成17年度調査』(平成18年)より

左のデータを見ると、大人にほめられたり、叱られたりした経験が多い小・中学生ほど、道徳観や正義感が育まれているということがわかります。

大人が子どもにきちんと向き合えば、特別なことをしなくとも、心は育まれるものなのです。

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。

思い出してみてください。食べものの記憶とともに、必ずそこに、人がつながってくるはず。誰と食べたか、どんな状況で食べたかというのがひとつの記憶となって子どもたちに残り、これからの長い人生に消えることなく、延々と続いていくのです。

(秋田大学教育文化学部教授 長沼誠子氏 「食を通した心と体の育ち」より)

「家族で読書」の良さは、子どもの読解力を育てるところではなく、本を話題に、子どもの心を知ることができるということにあります。本という共通の話題をとおして、お互いを理解しあうことができるのです。

(秋田県総合政策課県民読書推進班 富士盛泰子氏 「はじめよう！家族で読書」より)



地域の資源を活用する

地域の伝統行事は、異世代の人たちと交流できる貴重な機会です。さまざまな関わりを通して生まれるきずなは、子どもたちの社会性の土台となります。



乳児は 肌を はなすな
 幼児は 手を はなすな
 少年は 目を はなすな
 青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp

Only one

～ 子どもの「生きる力」を育む家庭教育 ～

今年度のテーマは「子どもの自立」です



2012年12月

発行：能代市教育委員会生涯学習・スポーツ振興課

OnlyOne
Column

子どもの自立

能代市社会教育指導員 高畑 勉

山里にある小規模校、Y小学校。修学旅行は、いつもほかの小規模校と合同でおこなっている。行き先は津軽海峡を越えて函館へ1泊2日。海を見られる、船に乗れる、友だちと泊まれる、夜は枕投げもできるかなと思うと、子どもたちは飛び上がるほどうれしい。

1日目の旅程は好天にも恵まれ、日中は元気いっぱい函館を楽しんだ。あとは、夕食をとり、函館山から市内の夜景を見るだけとなった。

さて、お楽しみの夕食。献立は、なんと「十勝牛のすき焼き」である。子どもたちの顔は、これ以上ないというぐらい、笑顔、笑顔である。やがて、肉の香ばしい匂いが部屋じゅうに立ちこめ、いやがうえにも食欲をそそった。肉は逃げやしないのに、「いただきます」の合図と同時に我を争って食べ始めるのは、いつもの修学旅行の、ほほえましくも楽しい食事風景である。

そんななか、箸も手にとらず、うつむいたままの女の子がいきなり

「すき焼き、嫌いなの？」

「いいえ」

「どこか、具合が悪いの？」

「いいえ」

「じゃあ、どうして食べないの？」

「……………」



これは何かあると思って、別室で女の子に事情を聞いた。すると答えて言うことには「卵を割れないんです」とのこと。ほかの学校の子どももいる手前、気恥ずかしさがあったのだろう。この女の子の家族は、いらない世話を焼いて、いつも卵を割ってやっていたのだ。

この女の子に限らず「このごろの子どもたちに、できないことが増えてきている」とあちこちで耳にする。例えば「朝、自分で起きられない」「箸をしっかりと使えない」「TPOに合わせて衣服を選べない」「骨のある魚を食べられない」「ワガママを自分で抑えられない」……………さて、このまま大人になったらどうするんでしょうと、少し心配だ。

「おつかい」にも同じことが言える。「〇〇ちゃん、晩ごはん、すき焼きにするから、お肉買ってきて」と言われたら、あなたの子どもはできるだろうか？ お母さんから渡されたお金、家族構成、どんなお肉を何グラム買えば良いかななどを素早く計算して買ってきて、はじめて「おつかい」をしたということにならないだろうか。お母さんのメモどおりに買ってばかりいたのでは、ほんとうの「おつかい」とは言えない気がする。

親の役割は、子どもが自立して生きていけるよう導くこと。子どもの将来の自立に役立つことは積極的に取り入れ、そうでないことは、すぐにでも見直してみしてほしい。

👍 おすすめの1冊

能代市立図書館所蔵の「子育て・家庭教育に関する本」のなかから、司書選りすぐりの1冊をご紹介します。



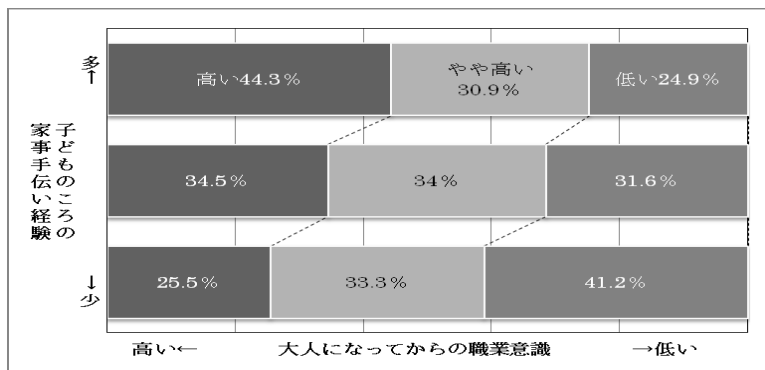
辰巳 渚の『子どもを伸ばす』シリーズ / 辰巳 渚 著 (岩崎書店)

大ベストセラー『捨てる! 技術』の著者が示す子育て哲学。どのシリーズを読んでも、やっぱり、家庭での日々のくらしが生きていく基本になるのだなあと感じます。「手を動かすと心が動く」「心が動いたときに、おのずから手が動く」…… 人の心を豊かにしていくものは何なのか、教えてもらえるシリーズです。

👍 データでみる家庭教育

子育てや家庭教育に関するデータを取りあげます。「今」がわかり、子育てのヒントになるかもしれません。

子どものころの「家事手伝い」経験と「職業意識」の関係



(独)国立青少年教育振興機構「子どもの体験活動の実態に関する調査研究」(平成22年度)より

左のデータは、20～60代の成人を対象に、子どものころの体験が大人になってからの考え方や行動にどう影響しているのかを調査した結果のうちのひとつです。

子どものころ、洗濯物を干したり、ゴミを出したり、掃除をしたり、食器をそろえるなど、家事を手伝った経験のある人ほど、働くことに対して前向きで、社会や人のためになる仕事がしたいと考えていることがわかります。

👍 ひとこと@家庭教育関係講座

能代市教育委員会では、家庭教育関係講座を実施していますが、その中から心にのこるひとことをご紹介します。



親と子の「心のかけ橋」をしっかりと築くこと。何か感情をもって子どもが発信してきたとき、親は解釈せず、必ず子どもに確認をする。これが一方通行にならない方法です。以前は私も口から何か言葉が出ていればコミュニケーションをしていると思っていました。今は、コミュニケーションは一方向的にやることではないなあ、と感じています。

(親業訓練インストラクター 鈴木聡子氏 「子育てを楽しむ3つのコツ」より)

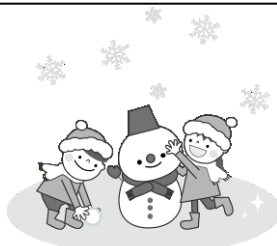
ひとりで悩まない。それが究極の上手な悩み方です。いっしょに悩んでくれる人がいれば、たいへん、どんなことでも大丈夫なんです。家族や友だちのほかに、もう1人、信頼できる大人をみつけてほしい。注意はするが怒らず、励ましとアドバイスをくれて、何をしても態度が変わらない、「また、おいで」と言ってくれる、そんな大人を。

(秋田大学大学院医学系研究科 准教授 佐々木久長氏 「悩んだとき、どうしていますか」より)



思い出を子育てに役立てる

子どものころを思い出してみ、一番心に残っていることはなんでしょう? うれしかったこと、ワクワクしたこと……その感覚を掘りおこして、子どもとの関わりに役立ててみましょう。



乳児は 肌を はなすな
幼児は 手を はなすな
少年は 目を はなすな
青年は 心を はなすな

☆ 通信に関するご意見やご感想、家庭教育に関するご相談等は、下記までお気軽にお寄せください。

能代市教育委員会 教育部生涯学習・スポーツ振興課 〒018-3192 能代市ニツ井町字上台1-1

TEL:0185-73-5285 / FAX:0185-73-6459 / E-mail:shou-supu@city.noshiro.akita.jp